

社会医療法人敬和会 大分岡病院

大分岡病院薬剤部 臨床研修プログラム

2025 年度

大分岡病院 薬剤部

2025/07/16

改訂第 2 版 2022/4/1

改訂第 3 版 2024/4/1

改訂第 4 版 2025/7/16

大分岡病院薬剤部臨床研修の理念と基本方針

1. 臨床研修の理念

当院薬剤部の理念である「患者に寄り添い、思いやりの心とともに、今できる最良の薬物療法を提供する」を実践できる薬剤師の育成を目的とする。

2. 臨床研修の基本方針

- ①安全で質の高い薬物療法を提供できる薬剤師を育成する
- ②チーム医療の一員として自身の役割を理解し、多職種と連携できる薬剤師を育成する
- ③自ら学び、考え、実行する能力を有する薬剤師を育成する

3. 臨床研修の概要

①研修期間

研修期間は原則1年とする。

②各部署の研修期間（詳細については、別途スケジュール参照）

調剤室：1年間

病棟：各病棟での研修は2週間とし、その後仮配属病棟を決定する

4. 臨床研修の評価

①研修薬剤師に関する評価

i) 自己評価

研修薬剤師は、臨床研修目標の到達度について、各研修項目ごとに、「研修薬剤師評価表」を用いて、定められた時期に自身の研修進捗状況のチェックを行う。自己評価を実施したのち、研修指導者へ提出する。

ii) 研修指導者による評価

研修指導者は、各研修項目ごとに、提出された「研修薬剤師評価表」を用いて、進捗状況のチェックを行う。その際、不十分な業務があれば、積極的にその業務を割り振るとともに、1~2週間を目安として再評価を行う。各研修項目について、レベルに達していると判断された場合にのみ、次のレベルの業務へと移行する。

②研修プログラムに関する評価

研修プログラム全体の評価については、研修薬剤師および研修指導者の意見を参考に、薬剤師臨床研修委員会で議論し、必要に応じて改訂を行う。

5. 大分岡病院薬剤師臨床研修委員会

別途委員会規程参照

6. 臨床研修責任者と研修指導者

臨床研修責任者：薬剤部長

研修統括指導者：認定実務実習指導薬剤師

研修指導者：調剤室担当薬剤師、病棟担当薬剤師

臨床研修プログラムについて

この臨床研修プログラムは、病院薬剤師として働くために必要とされる知識や技術を習得することを目的とし、各レベルの到達目標、行動目標、研修内容、研修期間、評価方法などを明らかにしたものであり、新入職員及び新入職員教育に携わる職員が情報を共有できるようて大分岡病院薬剤部で作成されたものである。

◆研修プログラムの役割

①ガイド機能

病院薬剤師として、必要とされる知識や技術にはどういったものがあるのかを示したガイドとして使うことができる。

②習得効果を高める機能

自身がどのレベルに達しているのか、到達目標や行動目標などを繰り返し確認することで、習得効果を高めることができる。

③一貫性を持たせる機能

新入職員教育に携わる職員全員が、臨床研修プログラムに沿った指導を行うことで、一貫性を持った教育を実施できる。

④教育内容の改善につなげる機能

新入職員は臨床研修プログラムの内容をチェックし、改善点を挙げることにより、より充実した臨床研修プログラムにアップデートすることができる。また、新入職員教育に携わる職員自身が臨床研修プログラムに沿って教育を実施し、言語化することにより、成長につなげることができる。

<基礎事項>

「当院や薬剤部の理念を理解し、常にそれにふさわしい行動をとることができる」の目標に基づき、法人合同研修や薬剤部オリエンテーションに参加する。

<基本業務・調剤支援業務>

業務手順書に従い、薬剤師としての基本業務（内服・外用調剤、注射調剤、鑑査、無菌調製など）および調剤支援業務（DI業務、発注業務など）を実施する。

- 電子カルテ情報を活用した画面鑑査と疑義照会
- 処方箋に基づく医薬品の調剤と処方箋鑑査
- 医薬品の安全管理
- 外来患者への薬剤の受け渡し
- 特別な管理を必要とする薬剤（毒薬、向精神薬、特生物、麻薬など）の調剤と管理
- 院内製剤の調製
- 高カロリー輸液の調製・鑑査
- 手術室やカテーテル室での医薬品の補充
- 注射剤の配合変化の対応
- 医薬品の発注と納品
- 問い合わせ対応
- 医薬品情報の収集と加工

<病棟業務>

病棟担当薬剤師の指導の下、持参薬鑑別や患者指導など、病棟およびそれ以外における薬剤師の業務を実施する。

- 持参薬鑑別
- 患者への服薬指導
- チーム医療への参画
- 病棟における医薬品管理
- シミュレーションソフトを用いた抗 MRSA 薬の TDM
- 副作用報告・プレアボイド報告
- 集中治療室（ICU）や手術室で使用する薬剤の評価
- 患者の状態把握と処方提案
- 抗がん剤の調製・鑑査

- 職業性曝露対策
- 抗がん剤治療患者への指導
- 薬薬連携
- 学術発表